

普及活動検討会実施報告書

(石巻) 農業改良普及センター

実施月日：令和2年8月25日

実施場所：石巻合同庁舎(石巻市)

1 検討内容

No	検討項目
1	現地検討 プロジェクト課題No4 「地域活性化に向けた高収益作物(アスパラガス)の導入・定着」 アスパラガス栽培ほ場の現地視察
2	総合検討[令和2年度プロジェクト課題の計画, 活動報告について] イ 令和2年度普及指導計画について ロ プロジェクト課題の進捗状況

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	2	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	2	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	2

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

※下記「評価結果」欄の「○印」は普及活動検討会時にいただいたご意見等、「◎印」は、提出があった「普及活動検討会評価表」(別記様式第1号)の「評価(評価できる点や改善すべき点)」欄に記載された内容を転記しています。

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント, 評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
プロ課題 の進捗状 況 課題No.1	4.0	◎テーマ選定の背景が復旧農地の「生産性が低い」事で、原因は地力(窒素の値)が弱い(低い)と言う事を聞いた。その事実は、計画時に把握できなかったか。収量が他の農地より「低い」は、計画的に解決すべき課題と思うが、収量が普及センターの想定よりも「低い」ならばそれは問題だ。収量は、生産者の利益に直結すると思います。生産者からの信頼をより高めるため、普及センターには農地の状態に関する精密な把握と、それから導かれる収量(結果)についてより正しい情報提供をお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> 震災により、特に被害の大きかった海側の地域の農地が復旧し、作付が始まろうとしています。地盤沈下や作土層の流出した対策として、肥沃度の少ない山土などによる盛り土や客土が行われましたが、R2作付再開ほ場のアンモニア態窒素を分析したところ、内陸部の水田と比べものにならないほど地力がないことが明らかとなりました。 そのため、普及センターでは堆肥施用等による土づくりを推進し、生育状況を見極めながら、収量目標達成に向けた栽培技術支援を実施しております。現地検討会等を開催し生産法人との情報共有や、(株)宮城リスタ大川を対象に実施している「水稻栽培の基礎講座」等をじた情報提供などを引き続き実施していきます。

◎計画値と実績値にかい離がある場合、計画時に考慮すべき事項に抜けがあったからだと思う。普及センターには計画力の向上を期待したい。

◎普及センターの計画力が高まれば、地域農業者は今よりも更に安心してセンターの指導に従える。

◎活動展開の方向性は問題ないと思う。

◎目標達成程度は適切と思う。

◎数値目標だけでは厳しいと思う。バランスのとれた堆肥の確保が重要。

(管内で活動している堆肥専門農家を把握することが大事)

◎震災前とは土地も規模も人材に関しても条件が大きく変わっている中で生産性向上に向けて上げられている目標や支援の方向等はよいと思う。

◎数値目標として令和2年 445kg/10a 令和3年 460kg/10a と15kgずつ増加する数字を設定しているが、目標数値をもう少し高く設けてもよいのではと感じた。今年の収穫量の状況をみて、令和3年の目標数値を見直すようお願いしたい。

・被災農地の土づくり推進として、河北、北上地区の畜産経営体の内、家畜排泄物法の管理基準適用（牛10頭以上、鶏2000羽以上）となる経営体（牛32農場、鶏4農場）について、堆肥の生産・利用状況、供給可能量等について調査しています。地域内で継続的に堆肥を利用していくために、耕種農家と畜産法人・農家との連携に向けたマッチングを支援しています。

・大川地区の内陸部の針岡地域の水田の収量は、長面地域の収量に比べて多くなっています。農地の復旧工事が終盤に入り、長面地域の特に被害の大きかった海側の地域の農地が復旧し、作付が始まろうとしています。地盤沈下や作土層の流出した対策として、盛り土や客土が行われました。ただし、作物を育てるために条件の良い土が手に入らず、地力がほとんどない状態となっています。また、復旧農地では、塩害の心配もあります。

・被害の大きかった復旧農地に実際に水稻を作付けしてみると、地力がほとんどなく、水稻の生育や収量が少ない状態となっています。また、漏水が多く、内陸部のように順調に水稻を栽培管理することが難しい条件となっています。整備後の土壌が落ち着くには時間を要することから、数年間水稻を作付けしながら、毎年、生育状況を見極めてから、栽培技術上の工夫等により、生育と収量向上を図っていく必要があると考えます。令和3年も含めた数年間の作付を実施した後に、収量の数値目標の見直しを行うことが妥当と考えます。リスタ大川の長面地域における耕作面積の割合は、農地の復旧にともない、毎年、多くなっています。長面地域の水稻収量が低いことは、リスタ大川の経営に大き

- ◎地域内で耕畜連携の体制が整うとよいと思う。
- ◎地力増進となると5～10年かかると思うが、継続して支援をお願いしたい。
- ◎畜産法人・農家，耕種法人と今後必要になってくる話し合いには普及センターの先生方がうまく間に入って話がスムーズに，そしてよい報告に向かうように進めてもらえたらよいと思う。
- 圃場整備で形を作っただけで水稻が作れるわけではないため，被災農地の土づくりは農協でも重要な課題であると捉えている。堆肥の確保や畜産農家，耕種農家，粗飼料販売農家等のマッチングができれば課題として飛躍的に進歩するのではないかと思った。
- ◎堆肥活用においては，畜産法人との連携によつての効果検証などのデータを蓄積することでさらに活用の汎用化が図れることで，市内法人の活用の幅が広がると思われる。
- ◎被災地域における地力回復・増進は，今後の営農継続を大きく左右する課題であると思われる。地力を高めていくのは長い期間の取組となるため，近隣農家との連携も大切だが，農業者の高齢化・後継者不足は否めないことから，長期の視点を取り入れ，継続して取り組めるような手法の検討も行うよう要望する。
- ◎これまでの被災地の農地集積後の水稻栽培については，もともと地力が低い農地であるが，個人で管理していた震災前より反収が落ちこむケースが見受けられるので，実証圃をもつての検証は意義が大きいものと思われる。
- ◎被災地については地力の課題があり，直播については，除草並びに施肥の判断が，収量に大きく影響するものと思われる。特に大規模面積を抱える法人体制の中で，圃場毎に観察判断できる人が少ないと収量への影響があると思われる。
- ◎復旧農地への堆肥施用の効果が大きいことを認識し，畜産法人，農家，耕種法人与人の連携を行い，単収増に繋がるよう支援をお願いする。
- ◎収穫量に大きく影響する土づくりに着目し，プロジェクト課題とした点については，評価できる。

く影響してきます。堆肥施用等による土づくりにより，収量向上を進めていく必要があります。限られた年数の中で，水稻の収量向上を図る支援が必要と考えております。

- ・地域内有機物の継続的な循環が図られるように，耕種法人と畜産法人・農家の耕畜連携をコーディネートしていくと共に，将来的な法人間連携による作業分担や機械の共有化等の可能性・有用性についても合わせて検討していきたいと考えております。

		<p>○土地利用型法人が水稻栽培を大規模化していくなかで、「雇用と人材」が課題になっている。これまで小規模な家族的な経営で、農繁期だけアルバイトを雇用したりだとか、海外の技術の研修者を招いていたということもあったが、コロナ下で技術の研修生を受け入れられないということもある。そのため、人材の確保が難しい地域では、法人が共同で担い手の育成、雇用とか求人を行う、人材をシェアすることを考えていかないといけない。</p> <p>◎土地利用型法人の大規模農業における生産性の部分は評価したいと思うところではあるが、その生産性の向上には、「人材育成」が不可欠ではないかと考える。</p> <p>◎また、大規模化になればなるほど、雇用の確保が難しくなっているのも否めない。そのため、プロジェクトの中にぜひ生産性の向上と人材育成も加え、両輪でのプロジェクトになると良いと感じた。</p> <p>◎目標達成のアウトカムに、「人材育成」を加えてみてはどうかと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成に関しては、プロジェクト課題と並行して、普及センターの重点活動で「経営の発展段階に応じた総合的な支援による活力のある経営体の育成」を活動項目に、法人の人材育成の支援を行っております。 ・また、(株)宮城リスタ大川から相談を受け、非農家出身の農業経験年数の浅い従業員向けに「水稻栽培の基礎講座」等を、職員が講師となり開催しています。その中で、地力向上の必要性、堆肥施用による水稻増収効果、継続の必要性、水稻増収による収益の向上の期待について、講義し、リスタ大川の若い従業員にも、土づくりの継続による水稻収量の向上と安定が、収益や所得の向上、将来のリスタ大川の会社としての安定につながることを理解されるよう努めています。
課題No. 2	3. 8	<p>○目標がミニトマトにおける標準作業を作るとのことだが、作業標準書というイメージでいいのか。普通、誰でもできるように、標準作業が紙に書いてあるようなものを作っておくというのが一般的だと思うが。成果物としてはミニトマトの標準作業書ができるということではよろしいのか。</p> <p>○どこまでできるかはやってみないとわからない部分が非常にあると思うが、普及員が関わり、生産者が作業標準をつくり、以後は自分たちが作っていけるというところを目標にしてほしい。作ってあげては意味がない。</p> <p>○技術研修を実施するという部分もあったと思うが、他のチームでYouTubeを活用しているので、そういったものを活用してもいいのではないかと感じた。</p> <p>◎計画の設定について良いと思う。</p> <p>◎活動展開の方向性は問題ないと思う。</p> <p>◎目標達成程度は適切と思う。</p> <p>◎とても良い取組みと思う。作業標準書の整備は、組織の力を一定以上に保つ、非常に有効なツールだと思う。整備が行きわたるには地道な努力を継続する必要があるが何より大切なのが最初の一步と思う。</p> <p>◎是非、現場で使える標準書作りを支援してほしいと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者と共に作り上げていく作業標準書というイメージで考えています。ミニトマトの播種から収穫までの全工程、または滞りやすい作業に特化してその工程だけ標準化してどれくらい効果があるのかについて今後検討します。例年作業が滞りがちな誘引などは、人によって差が出ないように見える化していきたいと考えています。

また事業者が自力で作業標準書を作成し、常に使える状態を維持する能力を支援してもらえればと思う。

- ◎決めごとを見える化して共有できる体制が整い、より良い法人経営になっていくよう引き続き支援をお願いしたい。
- ◎定量的数値目標として、「ミニトマトの標準作業」と掲げているが、実際に、検証する際において、目標達成に至ったかの評価が可能なのか疑問である。
- ミニトマト以外の園芸部門の品目をやっているのか。
- 作業遅れについて、完全に水稻部門と園芸部門の社員が別れているが、融通はあるのか。水稻部門はある程度機械化も進んでおり、技術が進んでくると省力化ということもあるが、園芸はどうしても手作業で細かい作業で人手がかかるので、支援する体制がないと、法人としてのバランスがどうなのかと感ずる。
- 部門別に作業するやり方で、従業員の気持ちがバラバラなところが不安であるというような話も聞いている。部門毎にしっかりと別れている方がいいのか不思議に思った。
- 大規模な法人ほど内部をコントロールしていくことが非常に難しい。JAや県で資料を作り、法人にやってもらうことは簡単だが、自分達で考えていないから応用ができない。ヒントは与えて、それを考えてかみ砕いて自分たちの色にしていくというのが非常に重要だと思う。
- ◎経営管理は大事だが、従業員同士のコミュニケーションバランスをもっと大事にしてほしい。
- ◎部門間の人員のやり繰りによって、作業の遅れ等を回避する必要があると考える。
- ◎園芸部門、水稻部門、どちらもお互いに作業の情報を共有し必要に応じての人の行き来、助け合いはあった方がよいと思う。
- ◎農業生産法人のハンズオン支援は、もっと多くの法人にも取り入れて欲しいほど、組織力強化は重要度の高いプロジェクトだと思う。
- ◎農業の世界は、どうしても「体で覚える」「みて覚える」「気合いと根性とやる気」のようなマインド的な部分での技術指導やマネジメントが多いと感じている。継承できる組織作りのためにも、農業といえども、ガバナンスやコンプライアンスなどの規程をしっかりと構築していくことで、健全な経営体制と人材育成、技術指導が円滑にできる

・定量的目標を「作業手順書」のような明文化された成果品ができあがることとしていますが、併せて、それを活用し効率的な作業が実践されるよう支援していきます。

・ミニトマトの他、露地ネギを1ha生産しています。
・園芸は園芸、水稻は水稻と分かれており、現状では人の融通は行われておらず、一つの課題だと認識しています。今後ハンズオン事業を活用し、検討していきます。

のではないかと考える。

- ◎このプロジェクトがロールモデルになればなお良いと感じた。
- ◎アウトカムや評価の部分においては、内規類の整備と社内コミュニケーション（ツール）の円滑化、技術においては定量的な指標での管理システムの構築によって諮ると良いと思う。
- ◎震災後に設立された大規模法人には、地域的な課題もあるようだが、共通しているのが、今回の課題だと思われる。次の世代を見据え、会社内の体制・内規整備や作業手順書など、会社内の見える化を自発的に進めていくような支援を期待する。
- ◎また、水田部門と園芸部門の労働力配分についても、データ等を用いて検討する場面が必要かと感じた。

- ◎被災法人や圃場整備要件による法人が増えている中、各法人ともいろいろな課題を抱えている状況があるので、今回の取組みのような組織体制の「見える化」「共有化」は必要と思われる。
- ◎今後法人内で継続できるよう、目標があり、具体的な活動・取組みに落とし込んだ実施内容があるので、検証からさらに中長期の目標設定をしてもらおうよう、現段階から意識付けをお願いしたいと思う。
- ◎経営管理、人材管理が重要と考えるので支援をお願いする。
- ◎新しく雇用する特に若い社員に対しての技術を伝承することは、大変重要なことであり、伝承する側が、今までの経験等で培った栽培技術を、口頭のみで伝えることは伝えられる側としては、技術習得に限界があると思われ、「標準化」「見える化」を行い、栽培管理技術の共有化を図ることは重要であるものと認識している。

- 法人で6次化を分かれているところも多いが、売上、収益を鑑み、6次化部門を縮小しなくてはいけない法人もあるのではないかと思います。いろいろ多方面にやることで、雇う人やパートも増やさないといけず、経費の面でもどこまでやっていけるのか、品質向上かつ経費その辺のバランスがとれないのではないかと心配がある。

- GAPを取得に向け、法人はかなりの準備努力をしている

- ・部門間の労働力配分やシェアについては、会社運営において見逃せない視点であると認識しており、ほ場管理システム等の活用を促し、労働データを収集するところから支援していきます。

- ・多角的な経営となると、それに長けた人材をどう確保育成するかが重要になってきます。今回のコロナウイルスの関係でイベントを自粛していることもあるので、6次化については引き続き研修会等を開催しつつ、収益確保に向け支援していきます。

		<p>と思うが、一般の消費者、スーパーで購入する主婦の方などにはGAPがあまり浸透していないのではないかと感じる。給食センター便りなどを活用し、消費者にも農業者がこういう努力して、良い取組をしているというのを知ってもらっても良いのではないかと思う。</p> <p>◎震災後の機械の更新に来ているため、保有できる範囲を適切に指導してほしい。</p> <p>◎余談ですが、基地のある東松島らしく資料全体からブルーインパルスがイメージされ、見やすい資料だった。</p>	
<p>課題No. 3</p>	<p>3.7</p>	<p>◎計画の設定について良いと思う。</p> <p>◎活動展開の方向性は問題ないと思う。</p> <p>◎目標達成程度は適切と思う。</p> <p>◎テーマ選定の背景が「収量が上がらない」で、原因は「房折れ」と「中休み」だったと思うが、その事象は以前の計画時に把握できなかった事なのか。</p> <p>◎計画値と実績値にかい離がある場合、計画時に考慮すべき事項に抜けがあったからと思う。普及センターには計画力の向上を期待したい。</p> <p>◎普及センターには、品種に合わせた栽培管理ノウハウの早期確立支援、確立した栽培技術の共有、防除情報の迅速提供、栽培防除技術の流出防止等をお願いしたい。YouTubeの活用も良いのではないかと感じた。</p> <p>◎普及センターの計画力が高まれば、地域農業者は今よりも更に安心してセンターの指導に従える。撤退農業者を減らす事が出来ると思う。頑張ってもらいたいと思う。</p> <p>◎県内のいちごの減収に伴う具体的な指標を目標値とした方が改善に向けてベクトルを合わせていけるのではないかと感じる。例えば、環境測定装置の測定データと収量の関係性の解析結果に基づく温度管理、排水不良の改善、これらをどこまでどのようにすべきか具体的な目標値を知りたい。</p> <p>◎全体的に収量が落ちているとのことであれば、成功事例が県内外にあれば、視察研修も視野に入れても良いのではないか。</p> <p>◎いずれにしても、収量の安定化には、技術指導の強化・解決策のアイデアの共有が必然と考える。</p> <p>○「にこにこベリー」の反収で、31年と令和2年で収量が</p>	<p>・石巻管内では新たにR2年産から新品種「にこにこベリー」の栽培が開始され、「房折れ」「中休み」などの事象を把握しており、計画作成後のR3年産において適切な技術対応をしていく予定です。</p> <p>・「にこにこベリー」は、「とちおとめ」よりも栽培中の夜温を下げる必要もあり、暖房費のコスト削減もメリットの一つです。そのため「とちおとめ」よりも夜温を下げる管理を徹底していく予定です。排水不良の改善に関しては、培地の状況を観察し交換や耕耘などの対応、日射量や気温に合わせた灌水の指導を行う予定です。</p> <p>・亘理・山元地域は「にこにこベリー」の栽培開始が石巻より早く、つくりこなしている生産者が見え始めているため、11月、2月に石巻の生産者の視察研修を行う予定です。</p> <p>・いちごに関しては、「にこにこベリー」に限らず、他</p>

下がったのは、「にこにこベリー」に限ったことなのか、いちご全体なのか教えてほしい。

- 被災後からミニトマトも含め、隔離ベットを使用する法人が多くなっているが、品目を問わず収量が落ちてきている状況がある。要因のひとつに、培地を交換しないでそのまま使っているということがあるように思う。収量が落ちた中で模索しているという法人が多くなってきていると思うので、品種、作物にとらわれず、培地やマット交換時期になっていると思うので注視してほしい。
- いちごも法人によって、ずいぶん収量に違いが出ている。使う肥料や培地のpHなども異なるので、現地検討会で情報交換・情報共有して、新しい品種をうまく広げられるようにしてほしい。
- ◎培地のpHの点検や肥培管理、適切な病虫害防除等、法人によって違いがあり、収量にも差が出ているようなので、ライバルではあるけれど同じいちごを作る仲間として、情報交換や交流を活発にし、どの法人も良いものを多く収穫できるよう引き続き調査、巡回をお願いしたい。
- 昨年度から「にこにこベリー」を栽培しているが、前年比の収量が減少した。自分たちの力不足もあるが、「にこにこベリー」で減収したからやめた方もいるという話を聞いている。今年・来年あたりで盛り上がっていかないと、せっかく「にこにこベリー」を開発したのに尻すぼみになってしまうのではないかと心配している。
- どの法人もそうだが、情報共有がとても重要だと感じた。新しい品種だとなおさらすべてにおいて初心者なので、普及センターに指導してもらわないと不安。
- ◎新しい品種なので、今後収量アップにもっていけるよう指導を仰ぎたい。
- ◎今回の検討会では、培地についての説明があったが、2年産では培地交換に加え、既存培地の管理も改善策として提案もあったようなので、コスト面も意識した指導が行われていたように思う。
- ◎農業者の所得増大につながるよう、きめ細かな情報提供と栽培指導を期待する。
- ◎生産者が元の品種に戻るの心配。継続した指導と支援をお願いしたい。

の品種でも、同じような理由で収量が低下しているのがR2年産の特徴です。宮城県に限らず、栃木県などでも台風等の影響で収量が低下しており、R2年産はどの県も苦しい状況だったと思われます。減収の割合としては、どの品種も約1割程度です。

- ・使用年数や排水性が不良となっている場合については培地交換の指導はしているものの、コストや作業性の問題から交換を躊躇する法人が多いため、培地の天地返し・ほぐし作業の呼びかけを行っています。

		<p>◎石巻管内の「にこにこベリー」の報告については、いちごの全国的な収量低下があり、にこにこベリーの樹勢の弱さについて把握できるが、当産地については培地が調査結果に影響しており、対象の考え方が難しいものと考えている。</p> <p>◎また、比較として他品種も含めて今年度の収量低下の状況については、県試験場の結果でも良いので、分かれば数字を持ってほしい。</p> <p>◎今後も作付け規模拡大がなされると思う。品質及び収量の安定化、そして経営が安定することを期待する。</p> <p>◎課題に対する分析等の説明はわかりやすかったが、委員からの意見もあったように、中休みなどの影響からか、栽培面積を縮小または別品種栽培に切り替えるなどの動きがあることを聞いており、他品種と比べての、付加価値が高い品種との位置付けとならないと、先細りしてしまうのではないかと懸念される。</p> <p>◎新品種が開発され、定着するまでにはかなりの時間を要するものと思われる。</p> <p>◎管理状況による収穫のばらつき幅が大きく、更なる収穫安定化による栽培面積拡大となる生産者への指導・助言をお願いしたい。</p> <p>◎新品種定着に向けて、栽培特性をいろいろ模索していると思う。「とちおとめ」、「紅ほっぺ」に次ぐ品種になるように期待している。</p> <p>◎「にこにこベリー」の登場は消費者に好印象だったと思うので、宮城の品種として定着するよう色々な角度からの支援をお願いします。</p>	<p>・「とちおとめ」、「もういっこ」などの収量は把握しておりますので、検討会時にお答えできるよう準備いたします。</p>
課題No. 4	4. 4	<p>◎計画の設定について良いと思う。</p> <p>◎活動展開の方向性は問題ないと思う。</p> <p>◎目標達成程度は適切と思う。</p> <p>◎なぜ、アスパラなのかについての理由はもう少し必要だと思った。 (石巻市が適地なのかどうかも含めて) (他の作物にも高収益作物はあるのではないか?)</p>	<p>・アスパラガスを選んだ理由は、①高収益作物であること、②採りつきり栽培（定植翌年収穫が可能、通常栽培は定植後3年目で収穫）であれば新規作目として取り組みやすいこと、③全国的な作付け面積が減少しているが需要があること、④パイオニアエコサイエンス(株)および明治大学より定期的な技術指導および品種選定の助言を受けながら、産官民と連携して生産振興に取り組めること、があげられます。</p>

○10aあたりの売上については説明があったが、事業体として考える場合は利益であり、売上以上に経費がかかる、手間がかかるでは事業ではない。1400円/kgの売上ならば、kgあたりの経費がいくらかも見極めてほしい。

○市場調査等をやるなかで、平均単価を上げるというのが一つの課題になる。その際に、採りつきり栽培の良さを生かしていくということが必要。太い物が高いという市場評価があるので、そういう部分で産地化ができればよいと思う。
○危惧していることとして、石巻地域は春野菜を多く作っているの、アスパラガスを進めていく中で、最終的には出荷調整のところで行き詰まるのではないかと考えている。その課題解決をしていかないと、直売所関係の出荷で終わってしまう。

◎儲かる農業推進に資するととても良いテーマだと思った。新しい技術を使っており、大きな可能性を感じる。普及センターには今後、より精密な収益情報（売上、費用、利益）の提供をお願いしたい。

◎少量多品目といわれる当地域において、「儲かる農業」をスローガンに普及拡大を図っていくことは、主力である米

・アスパラガスは日本中で栽培されており、宮城県（石巻管内）において適正な栽培管理が行われれば、栽培は特に問題はありません。

・高収益作物としては、いちご、トマト、きゅうり等がありますが、施設導入や高度な技術を要することから、施設整備に費用があまりかからず、高度な技術を要しない作物の中から、市場ニーズの高いアスパラガスを選択しました。

・アスパラガスの長期栽培のシミュレーション、収支計算は概要が出ていますが、昨年からやっていただいている採りつきり栽培については、現在集計中です。

・どの資材をどう使えば儲かるのかを捉え、生産者にフィードバックすると共に、安価な中古資材や廃材を使うなど、初期投資、固定費を下げていくような方向で考えております。

・利益に関しては調査中で、見込として300kgとれば十分利益があがると試算しております。

・圃場整備地区でアスパラガスを生産している農家を巡回したところ、試験的に2～3畝ですが、順調に生育し来年の収穫に期待しています。次は売り先のことや、水稲作業との調整があります。全国的な産地では、作る人は作る、集出荷場にそのままコンテナで持って行って、その場で調製するなど、分業しています。今年管内の法人でやってもらっているように育苗は育苗、生産する人は作るだけ、調整・出荷は別のところと、分業しないとなかなか産地化はできないのではないかと認識しております。

・このままでは直売所がいっぱいになって価格が下がる可能性があります。作って終わりではなく、全体的なこと、生産から販売までを考えないといけないと認識しているので、生産者、関係機関と流通、販売について検討していきたいと考えています。

の生産が減少していく中であって、重要な取り組みだと思っている。

- ◎当JAとしても、園芸作物の普及拡大における露地の重要な品目として位置づけているので、「儲かる農業」の実例となるよう、技術の確立・普及に努めてもらいたいと思う。
- ◎高収益作物のひとつとなりえるアスパラガスには、大変期待している一方で、安定した収入を得ることにつながる販売先確保などの販売力の向上が求められるところである。また、病害虫対策の徹底についても、栽培者が共通認識も持つことも重要な要素であるように感じられた。
- ◎出荷体制を安定したものにすれば、今後も期待が持てると思う。
- ◎今後が大事と思うが、アスパラガスの生産拡大・定着については、出荷時期が春のため、重複している作物も多く、その中での優位性（収益）が図れないと、定量的目標は厳しいものと思われる。
- ◎課題としてあげた、出荷調整の部分については、拡大を考えると優先順位が高く、必要とおもわれるので、関係機関での検討も必要と思われる。

- ◎普及センターには、栽培管理ノウハウの早期確立支援、確立した栽培技術の共有、防除情報の迅速提供、栽培防除技術の流出防止等をお願いしたい。また収量予測方法の早期確立を希望する。YouTubeの活用等、取組みも素晴らしいと思った。需要喚起のため、ブランド確立や食べ方・料理法の発信も必要だと思った。
- ◎普及センターには計画力の向上を期待したい。普及センターの計画力が高まれば、地域農業者は今よりも更に安心してセンターの指導に従えると思う。頑張ってもらいたい。
- ◎YouTubeを活用したことや情報の発信は分かりやすく大変によい試みだと思う。
- ◎生産者間の交流も大切にし、成功したことも失敗したことも情報の共有がうまくでき、安定生産、販売力向上につながれば良いと思う。
- ◎勉強会におけるYouTubeの活用はとても良いアイデアだと思った。情報の共有と技術の向上に効果があると思われる。
- ◎Youtubeでの動画配信は若い世代の農業者を中心として効果が期待されると思う。どうしても年配の方は紙ベースでの情報になってしまうが、関係機関でも配信されているものの紹介ができるので、広く拡散が期待されると感じた。

- ・生産者からは、出荷調整を始めとする販売面に労働力を振り分けるのが難しく、生産に集中できる体制を構築したいとの声や、他作物を栽培しているため春先の収穫に関する労力配分を危ぶむ声もあります。今後、生産者および関係機関と対応策について検討していきたいと考えています。

	<p>◎生産技術に対するツールについては、大変わかりやすく作成され良かったと思う。</p> <p>◎アスパラガスの採りつきり栽培情報としてYouTubeへの投稿，アスパラガス情報の発行等，石巻地域のアスパラガス栽培の普及を期待する。</p> <p>○普及センターに勧められ，栽培を始めたが病害虫がつきやすい印象。転作の高収益作物として，注目しているが，排水が重要。失敗例も紹介して欲しい。こまめな研修会開催に感謝している。</p> <p>◎期待されている作物であるので，今後もきめ細やかな指導をお願いします。</p> <p>◎自分自身，土壌病害で失敗しているが，引き続き挑戦していきたいと思う。</p> <p>◎高収益作物のひとつではあると思うものの，病害虫，排水の管理など簡単に栽培できるものではないように感じる。目標の設定として，技術力・販売力・ネットワークの3つが連動していることが重要だと思う。</p> <p>◎課題は，収穫量が伸びてきた規模になったときの販路や利益率の部分，雇用の有無など，どうなるのか気になるところである。</p> <p>○圃場整備の要件に高収益作物が追加され，JAでも悩んでいる。実際提案しても，大面積がこなせるわけでもないということがあり，この作物だけということとは言えない。アスパラガスは収益性を考えると非常に良い作物だと思うので，課題を突き詰めて，よりよく普及させてもらえれば良いと思う。</p> <p>◎圃場整備事業の一環として取り組むにはかなり大変。(労力，知力)</p> <p>◎勉強会等を重ねていくなかで，課題を解決し本地域の名産品となることで，高収益作物となるものと思われることから，栽培技術と販路確保を平行して進めていただきたい。</p>	
その他	<p>◎人員に限られる中，沢山ある課題の中から適切にテーマ選定されていると思った。またコロナ禍で活動が制限される中，可能な活動を積極的に展開されていると感じる。検討会においても各普及員が我々委員に解りやすく説明しよう</p>	

とする姿勢を感じた。

- ◎普及センターには、個別項目にも記載したが計画力の向上を期待したい。計画値と実績値にかい離がある場合、計画時に考慮すべき事項に抜けがあったからと思う。その点、振り返り（差が出た原因の検討）を更に充実させて計画力に磨きをかけて欲しいと思った。普及センターの計画力が高まれば、地域農業者は今よりも更に安心してセンターの指導に従えると思う。
- ◎経験はもちろん大事だが、情報というのもとても大切だと思う。情報量の差は判断力の差と言われたりもするが、農業の場合、働くことが中心の生活をしていると視野が狭くなったり、情報不足になったりすることも多いと思うので、色々な分野で勉強されている普及センターの先生方からの情報、支援というのはいつの時代も大切だと思う。これからも大きな法人も小さな農家もより良くなるよう広く深く見てもらえればと思う。
- コロナウイルスの影響で、和牛、花き等の農家は苦しい経営となっている。消費拡大等について、県の支援をお願いする。一過性にならないように、継続したPRを色々な媒体を通じてしてもらおうと良い。YouTubeなどの媒体と通じ、管内の農産物を一生懸命PRしてもらいたい。
- 花業界全体がコロナウイルスの影響で厳しいため、「#ビタミンF（フラワー）」という共通言語で花業界挙げて、生産者、花屋、市場関係者がPRした。ハッシュタグを通じて一般の方にもビタミンFが浸透して、各家庭で花を飾りたいということが出たのはよかった。
- 石巻市圏域全体で農産物をPRしていくなかで、インスタなどでハッシュタグ（#）で共通言語をつけていくと、そこから多くの方、多様な方はいっていきける。「#石巻農業」など共通言語を広めていくことで、広域に広報の拡大ができるのではないかと思う。
- ◎このような検討会でまとめられた事例は、どのように農業者へ情報提供されていくのか気になるころではある（HP上での公開や冊子の配布などがあると思うが）
- ◎この成果が、アーカイブされていき、より良く活用されていくことができればと思う。
- 経営管理、人材管理が法人には重要な課題になるので、普及センターから支援してほしい。この部分が一番課題にな

・普及活動検討会の資料や、検討委員の方々からいただいた御意見・御提出いただいた普及活動検討会評価表をまとめた実績報告などにつきましては、石巻農業普及センターのホームページにて公開しております。

ると思う。

○震災後に立ち上がった法人は、C4事業で多様な資材等を導入しており、大規模機械等の更新時期を迎えることとなるため、その状況を考慮した中で、的確な経営における指導・助言をお願いしたい。

◎各法人とも世代交代がうまく行われる所ほど収益が上がっていると思う。農大生との連携や農業を始めたい人とのニーズのバランスをとりながら、今までの農業形態も守りつつ進めていくのが理想だと思う。各農業者も柔軟な考え方でうまくこの課題を乗り切ってほしいと思う。

◎今年度の普及指導指針に記載されているなかで、特に、農業従事者の高齢化が益々加速することが予想され、このままでは、現在、中心的な農業経営者の担い手が、極端に減少するものと推測されることから、他地域から、人材を確保する抜本的な、施策を行うことが更に重要となるものと思われ、特に、コロナ禍の衰退時期が、予想できない状況下で首都圏から地方への移住を考えている方々が増加している傾向にあるとの情報もあり、今後、農業への志を抱いている方々の取り込む施策を講じてもらうようお願いする。

◎どの資料もそれぞれのイメージに合わせて見やすかった。

・農業振興部内に「地域農業経営高度化支援チーム」を設置し、今年度はC-4事業を活用した法人に対し、現在の経営状況、機械保有や更新状況などについて、12月末までに聞き取り調査を実施する予定です。その聞き取り内容に応じて様々な支援につなげていきたいと考えております。